

補充学習の再点検！（２）

～つまずき指導のために十分な体制を～

放サポ支援員配置校に実施した補充学習指導の実施体制調査について、結果をお知らせするとともに、指導体制構築のためのポイントを紹介します。

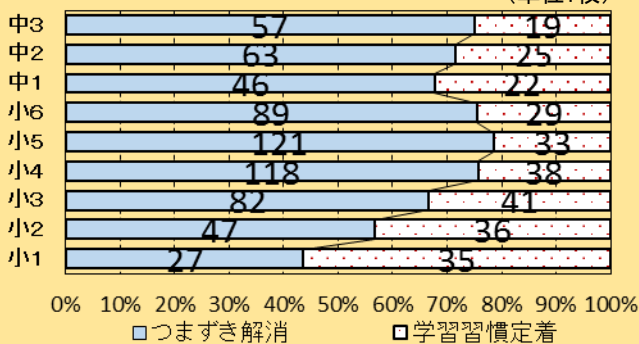
調査① 指導体制

（１）実施目的と指導形態

- ・ 自主学習のやり方から身に付けさせたい小学1年生に対しては、多くの学校で学習習慣の定着を主な目的とする指導を行っています。
- ・ 小学校の過半数、中学校のおよそ9割が個別指導の形態をとっています。参加する子どもの定着状況等に応じてきめの細かい指導ができるよう、指導体制を整えましょう。

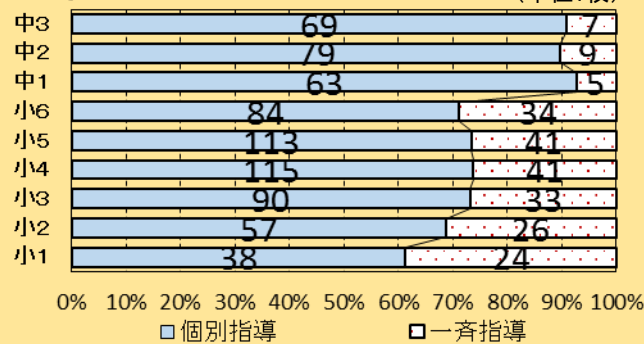
実施目的

(単位:校)



指導形態

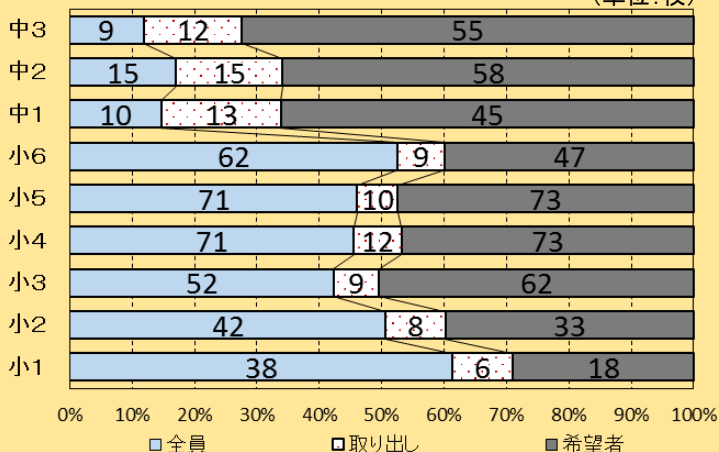
(単位:校)



（２）児童・生徒の参加形態

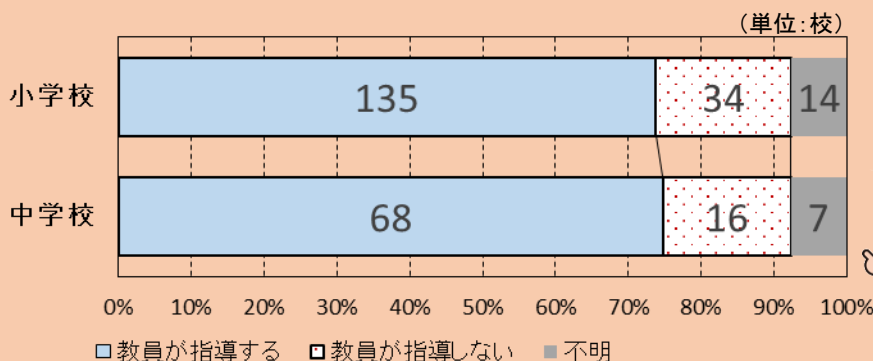
- ・ 小学校では約半数が全員参加で実施しています。一人の子どもに掛けることができる時間が短くなりがちであるため、なるべく多くの職員が参加して、個に応じた指導が可能な環境を整備しましょう。
- ・ 中学校では60%以上が希望制をとっています。希望制で実施する場合には、課題の多い子どもの保護者と連携するなど、対象となる子どもを必ず参加させるための工夫が必要です。子どもをつまずきを確実に解消するための仕組みを構築しましょう。

(単位:校)



調査② 教員の役割

- 前号（補充学習の再点検！）において、つまずき指導を支援員任せにせず教員が主導することが、補充学習を効果的なものとするためのポイントであることをお示しています。
- 今回、補充学習の中での教員の役割について記述を求めたところ、放サポ支援員配置校では、小・中ともに70%以上の学校で教員が補充学習指導に当たっていることが確認できました。
- 他の業務の都合等により、教員が参加できない場合があることはやむを得ませんが、学校教育の一環として行っている認識を持ち、教員が補充学習を主導しましょう。



子どもたちそれぞれのつまずきや、学習の定着度を最も理解しているのは、各教科の授業を行っている先生方です。
支援員のサポートを得て、補充学習指導を充実させましょう！

時間確保のための工夫

- 多忙な業務の合間に実施する補充学習ですが、各学校では指導時間を捻出するために様々な工夫を行っています。各学校が作成した昨年度の放課後学習サポート事業の最終報告書から、抜粋して紹介します。

(1) 小学校の実践

- 朝学習の時間を活用する。
- 昼休みの一部を活用する。
- 補充学習の実施日は、掃除時間を短縮する。
- 昼休みと掃除時間を10分ずつ短縮する。
- 帰りの会の時間を短縮する。
- 一斉下校にするため、補充学習のための6校時を設ける。
- クラブ活動や委員会活動を行う曜日を活用し、高学年と一緒に下校できるようにする。

(2) 中学校の実践

- 部活動のない曜日を活用する。
- 考査前の部活動停止期間を利用する。
- 部活動の朝練習の一部を朝学習に変更する。
- 授業中の小テストの不合格者を取り出して、部活動の裏で指導する。
- 課題未提出の生徒を取り出して、部活動の裏で指導する。
- 放課後だけでなく、夏季休業中に実施する。

県の実施する放課後学習サポート事業の支援員は、授業時間中を除けば朝学習等の支援に入ることもできます。登下校等、学校のスケジュールに応じて柔軟な体制を構築しましょう。